

相模原市立博物館活動評価書

(評価期間:令和 4 年度)

令和 5 年 11 月
相模原市立博物館

【目次】

I	博物館の活動評価にいたるこれまでの経緯	1
II	令和4年度 相模原市立博物館活動評価の総括	5
III	相模原市立博物館活動評価	
	IIIa 定量評価	9
	IIIb 定性評価	11

I 博物館の活動評価にいたるこれまでの経緯

平成 20 年6月に「博物館法」が改正され、博物館の運営状況の評価やその情報の提供等を行うこととされた。このため当館では、当館の使命等に基づき、**定量評価**及び**定性評価**の手法で、博物館協議会による有識者評価を経て、平成 23 年度から 25 年度、平成 26 年度から 28 年度、平成 29 年度から令和元年度、及び令和2年度から令和3年度までに引き続き、第 5 回目となる令和 4 年度の活動について評価を行った。

平成 20 年6月 博物館法改正

博物館法条文

(運営の状況に関する評価等)

第九条 博物館は、当該博物館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき博物館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

(運営の状況に関する情報の提供)

第十条 博物館は、当該博物館の事業に関する地域住民その他の関係者の理解を深めるとともに、これらの者との連携及び協力の推進に資するため、当該博物館の運営の状況に関する情報を積極的に提供するよう努めなければならない。

平成 21 年 12 月 第8期博物館協議会へ「活動状況に関する評価計画の策定」について諮問

第8期博物館協議会(任期:平成 21 年 11 月 20 日～平成 23 年 11 月 19 日)において、博物館評価の先進事例や当館のこれまでの活動状況をもとに、評価のあり方について検討が行われた。

平成 23 年 11 月 第8期博物館協議会より「活動状況に関する評価計画の策定」について答申

評価のあり方について答申されるとともに、相模原市立博物館の使命として次のとおり定められた。

- 地域の歴史や文化・自然に関する資料を調査研究し、また、収集した資料を適切に保存し蓄積するとともに、その活用を図りながら地域文化を継承・発信する拠点となること
 - 主体的に参加した市民と協働し、あるいは地域の諸機関と広く連携していく体制を整え、市民文化の向上に資する活動を積極的に展開すること
- また、重点課題として次の項目が挙げられた。

★ 常設展示のリニューアルと博物館ネットワーク計画の推進

- ★ 関連施設・機関との連携
- ★ 市民との協働による博物館活動の展開

平成 24 年 2 月 第 9 期博物館協議会へ「活動状況に関する評価計画の策定」について諮問

第 9 期博物館協議会(任期:平成 23 年 11 月 20 日～平成 25 年 11 月 19 日)において評価計画及び具体的な評価の手法について検討を行った。

平成 25 年 11 月 第 9 期博物館協議会より「博物館の活動状況に関する評価について」答申

同答申において、具体的な実施方法について次のとおり策定された。

- 定性的評価と定量的評価を組み合わせて行う。
- 定量的評価は、博物館における一般的な数値である入館者数ばかりでなく、特に当館の重点課題の一つである市民協働に資する活動等に係わる数値について、目標値を設定した上で実施する。
- 定性的評価は博物館の使命を達成するための当面の重点課題に対して行う。
実施の手順に際しては、重点課題を達成するために実施する事業について、まず館内部での企画内容とそれへの達成度に対しての自己評価を行い、それに対しての利用者・参加者側の評価をアンケート等の結果を基に示し、その上で**博物館協議会による有識者評価**を行って、全体的な評価としてまとめる。なお、協議会による評価は、会議の開催日程等、時間的な制約もあるため、効率的な実施に努める。

平成 25 年 11 月 第 10 期博物館協議会による**有識者評価開始**

第 10 期博物館協議会(任期:平成 25 年 11 月 20 日～平成 27 年 11 月 19 日)において、新・相模原市総合計画前期実施計画期間である平成 23 年度から平成 25 年度までの博物館の活動評価について、有識者評価を実施した。同時に、利用者統計や来館者アンケート、ボランティアによる評価等など、評価全体の方向性について検討を行った。

平成 26 年 11 月 平成 23 年度から平成 25 年度までの活動評価書を作成

平成 27 年 3 月 相模原市教育委員会定例会議にて報告

平成 27 年 11 月 第 11 期博物館協議会による**有識者評価開始**

第 11 期博物館協議会(任期:平成 27 年 11 月 20 日～平成 29 年 11 月 19 日)において、新・相模原市総合計画中期実施計画期間である平成 26 年度から平成 28 年度までの博物館の活動評価について、**有識者評価を開始**した。同時に、今後の評価の手法について検討を行った。

- ★ 常設展示のリニューアルと宇宙教育普及事業の展開
- ★ 関連施設・機関との連携

- ★ 市民との協働による博物館活動の展開
- ★ 博物館の基礎的な機能を果たすために必要な活動

平成 29 年 11 月 平成 26 年度から平成 28 年度までの活動評価書を作成、また、第12期博物館協議会による**有識者評価開始**

第 12 期博物館協議会(任期:平成29年11月20日～令和元年11月29日)において、平成29年度から令和元年度までの博物館の活動評価について、**有識者評価を開始**した。同時に、今後の評価の手法について検討を行った。

- ★ 展示教育普及事業の推進
- ★ 関連施設・機関との連携
- ★ 市民との協働による博物館活動の展開
- ★ 博物館の基礎的な機能を果たすための必要な活動

平成 30 年3月 相模原市教育委員会定例会議にて報告

令和元年 11 月 第 13 期博物館協議会による**有識者評価開始**

第 13 期博物館協議会(任期:令和元年 11 月 20 日～令和3年 11 月 19 日)において、平成29年度から令和元年度までの博物館の活動評価について、**有識者評価を開始**した。同時に、今後の評価の手法について検討を行った。

- ★ 展示教育普及事業の推進
- ★ 関連施設・機関との連携
- ★ 市民との協働による博物館活動の展開
- ★ 博物館の基礎的な機能を果たすための必要な活動

令和3年3月～7月 平成 29 年度から令和元年度までの活動評価を作成

令和3年 11 月 第 14 期博物館協議会による**有識者評価開始**

第 14 期博物館協議会(任期:令和3年 11 月 20 日～令和5年 11 月 19 日)において、令和2年度から令和3年度までの博物館の活動評価について、**有識者評価を開始**した。同時に、今後の評価の手法について検討を行った。

- ★ 展示教育普及事業の推進
- ★ 関連施設・機関との連携
- ★ 市民との協働による博物館活動の展開
- ★ 博物館の基礎的な機能を果たすための必要な活動

令和4年 10 月～11 月 令和 2 年度から令和 3 年度までの活動評価書を作成

令和4年11月 第14期博物館協議会による有識者評価開始

第14期博物館協議会(任期:令和3年11月20日～令和5年11月19日)において、令和4年度の博物館の活動評価について、**有識者評価を開始**した。同時に、今後の評価の手法について検討を行った。

- ★ 博物館の基礎的な機能を果たすための必要な活動
- ★ 展示教育普及事業の推進
- ★ 市民との協働による博物館活動の展開
- ★ 市関連施設・機関との連携

令和5年10月～11月 令和4年度の活動評価書を作成

Ⅱ 令和4年度 相模原市立博物館活動評価の総括

令和2年度・令和3年度の活動評価において指摘された事項への取組について

【指摘事項】

- ① 若い世代に向けた SNS の活用や利用者目線でのホームページの構築、動画の編集・公開方法、広報媒体の再検討など、広報活動を改善する余地がある。
- ② 常設展示の全面リニューアルが実現できていないことや、分野横断型の本当の意味での総合博物館としての企画を実現してほしい。
- ③ 学校との連携や学習支援に不可欠である博物館と学校をつなぐ役割を果たすコーディネーターの配置や、津久井地域にある所管施設の利用促進が必要である。
- ④ 高齢化による市民の会への参加者減少の対応策や、常設展示の展示替えをいかに市民協働で実現するかを考える必要がある。
- ⑤ 学芸員の調査研究活動について、博物館の活動を支える重要な機能の一つであることから、展示教育普及事業等とのバランスを図る必要がある。

【指摘事項に対する取組】

- ① については、新たに公式 Instagram を開設し、X(旧 Twitter)との連動や、庁内の SNS、関連団体や事業関係者のアカウントとの連携を進めている。動画編集についても音声の聞き取りやすさに配慮した収録方法を取り入れ、広報についてはネット上の PR サイトの活用など、持てる資源を有効活用している。
- ② については、常設展示の全面リニューアルには至っていないものの、補完するミニ展示や、Wi-Fi を活用した展示ガイドの導入などにより、現在の展示をより魅力的に紹介する試みを続けているとともに、総合博物館として、複数の分野が連携した企画展やミニ展の開催、調査研究を進めている。
- ③ については、教育委員会内の他部署と連携し、教職員への働きかけや、市立の小中学校校長会に博物館担当者を新たに設けるなど、学校との連携が円滑に進む仕組の構築に努めている。また、尾崎弔堂記念館や吉野宿ふじやについても取組を進めている。
- ④ については、市民学芸員を広報さがみはらなどにより公募している。一方で、市民の会については、講座の中で連携したり、博物館実習や中学生の職業体験の指導に加わってもらう中でその活動の様子を知ってもらい、市民の会への参加を促すなど、若い世代への呼びかけを進めている。
- ⑤ については、博物館の機能として、調査研究、資料保存、展示・教育普及は相互に関連しており、高い水準でバランスを取りたいと考えている。企画展等の事業をなるべく長いスパンで計画し、十分な準備期間を確保し、研究の成果を発表する場として機能するよう進めている。

令和4年度における活動評価全体総括

【当館の使命】

- 地域の歴史や文化・自然に関する資料を調査研究し、また、収集した資料を適切に保存し蓄積するとともに、その活用を図りながら地域文化を継承・発信する拠点となること。
- 主体的に参加した市民と協働し、あるいは地域の諸機関と広く連携していく体制を整え、市民文化の向上に資する活動を積極的に展開すること。

【評価項目】

- 1 博物館の基礎的な機能を果たすための必要な活動
- 2 展示教育普及事業の推進
- 3 市民との協働による博物館活動の展開
- 4 市関連施設・機関との連携

- 地域の歴史や文化・自然に関する調査研究を遂行し、その成果を活用して展示教育普及事業を活発に行っていることが評価され、来館者数の増加につながっていることも評価された。

具体的には、小予算ながらも着実に研究成果を上げ、他機関と共同研究を進めていることが評価された。また、新型コロナウイルスの感染拡大防止に配慮して、企画展やミニ展示を実施したことも評価された。今後、リピーターや高齢者の来館者数の増加に取り組んでほしいとの要望があった。

- 多くの市民団体や関連施設及び他機関と協力して博物館活動を展開していることが評価された。

具体的には、市民団体との協働により調査研究及び展示教育普及事業をはじめ、市関連施設や他機関との連携事業などが評価された。さらには、プラネタリウムを活用した多彩な宇宙教育普及事業の実施を推進してきた点も評価された。

博物館の使命を果たすべく、主体となる市民と協働し、関連する諸機関とさらなる連携を深め、今後とも改善を積み重ねながら調査研究・資料収集・教育普及事業に取り組むとともに、安心・安全・快適な施設運営に努めていく。

【定量評価】

入館者数・プラネタリウム観覧者などはコロナ禍前の 9 割程度まで回復し、講座参加者・講演回数、学芸員の講師派遣回数は、コロナ禍前の同程度の回数となっている。コロナ禍前の活動水準にまでは達していないものの、コロナ禍において活動を休止していた市民の会の多くが活動を再開した。市民の学習機会の場を維持し、生涯学習機関としての博物館として役割を果たすことができた。

【定性評価】

1 博物館の基礎的な機能を果たすための必要な活動(13～18 ページ)では、「資料収集及び調査研究とその成果の公表」「施設・環境の維持管理」について評価を行った。

有識者からは、学芸員の日ごろの調査研究、資料収集・再整理作業が成果を上げていることが評価され、他機関との共同研究による事業の発展も期待されている。また、収蔵施設の維持管理のための定期的な環境維持作業の継続が求められている。

課題としては、学芸員の専門性を担保するための環境整備や新たな収蔵スペースの確保、資料データベースの構築が挙げられた。

2 展示教育普及事業の推進(19～28 ページ)では、「企画展示・教育普及事業の実施」「宇宙教育普及事業」「様々なメディアを用いた情報発信の取組」について評価を行った。

新型コロナウイルスの感染拡大防止に配慮して企画展やミニ展示、講演会などの教育普及事業を実施し、幅広く学習機会を提供したことが評価された。また、プラネタリウムを活用した天文教育やコンサートなどのイベントの実施が評価された。

課題として、企画展やミニ展示の成果の常設展示への反映、JAXA に頼らない博物館独自の企画や気象関係の事業の実施が挙げられた。また、情報発信については発信方法の工夫や SNS のさらなる活用が求められた。

3 市民との協働による博物館活動の展開(29～32 ページ)では、「市民協働による調査研究・資料収集活動」「市民協働による展示教育普及事業」について評価を行った。

有識者からは、充実した市民の会の活動が評価され、市民協働による博物館活動の継続が期待されている。

課題として、高齢化による市民の会への参加者減少について、もっと具体的な理由分析が必要であるとの指摘を受けた。

4 市関連施設・機関との連携(33～39 ページ)では、「関連機関との連携」「学校等への学習支援」について評価を行った。

有識者からは、ミニ展示の出張展示、学校や他機関への学芸員の講師派遣の充実及び幅広い世代の見学・研修の受け入れが評価された。また、他の多くの教育施設をはじめ、

地域の様々な施設との連携強化が期待されている。

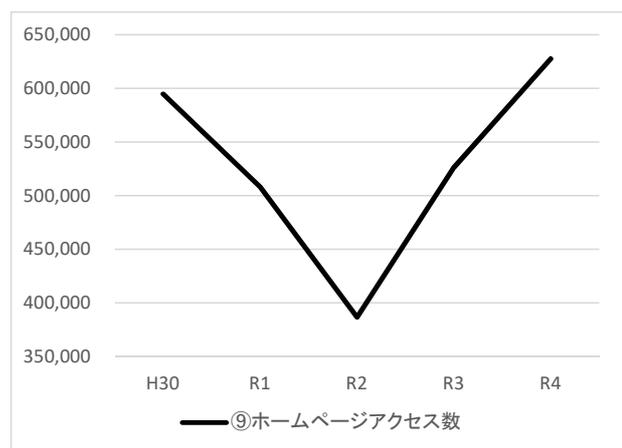
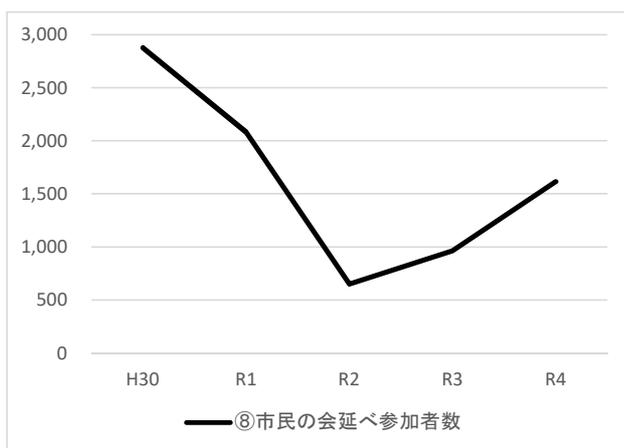
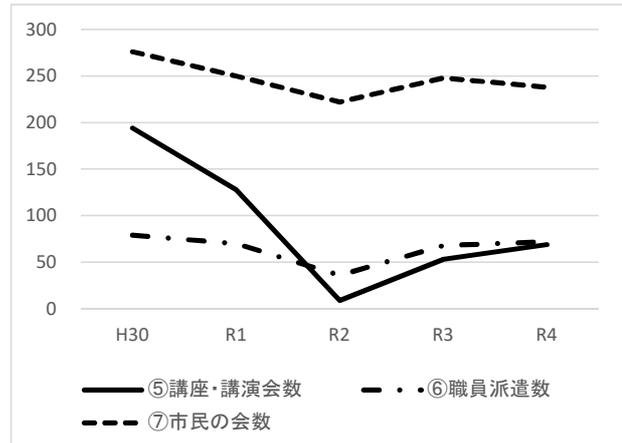
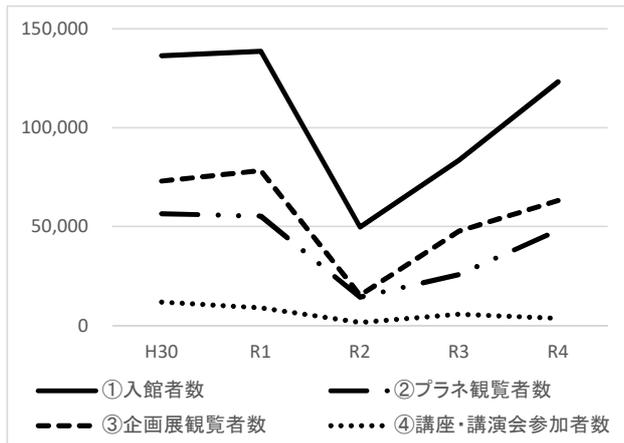
課題として、インターンシップの受入再開や、貸出キットの利用促進及び貸出件数が少なかったことの背景の説明不足が挙げられた。

Ⅲ 相模原市立博物館活動評価

Ⅲa 定量評価

【定量評価(定量分析)資料(令和4年度)】

	項目	30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年平均
①	入館者数	136,450	138,573	49,770	83,550	123,193	106,307
②	プラネタリウム観覧者数	56,530	55,195	14,323	25,700	48,147	39,979
③	企画展観覧者数	73,069	78,289	15,275	47,727	63,194	55,511
④	講座・講演会参加者数	11,841	8,962	1,542	5,667	3,685	6,339
⑤	講座・講演会数(延べ回数)	45(194)	42(128)	5(9)	7(53)	41(69)	28.0(90.6)
⑥	職員派遣(外部講師)数	79	70	36	68	72	65
⑦	市民の会数(登録者数)	12(276)	12(250)	9(222)	10(248)	10(238)	10.6(246.8)
⑧	市民の会延べ参加者数	2,876	2,080	649	963	1,615	1,637
⑨	ホームページアクセス数	594,620	508,070	386,706	526,359	627,459	528,643



【令和4年度の数値について】

①	入館者数は、令和4年度は123,193人で、新型コロナウイルス感染症による影響が無かった平成30年度の90.1%、年度終盤に休館期間に入った令和元年度の88.9%となった。
②	プラネタリウムは新型コロナウイルス感染拡大に伴う定員の制限が令和3年12月までであったが、令和4年度は従来の定員(210席)で運用している。その中でも、観覧者数は令和4年度は48,147人で、平成30年度と比較すると85.2%、令和元年度と比べると87.2%となった。
③	企画展観覧者数は、令和4年度は63,194人で、平成30年度と比較すると86.5%、令和元年度と比較すると80.7%となった。
④ ⑤	講座参加者・講演回数は、令和2年度以降新型コロナウイルス感染症の影響が最も大きい教育普及事業であり、また、内容や実施形態によって大きく変動しやすい数値である。単純な比較はできないが、延べ回数は令和4年度が41回で、コロナ以前と同程度の回数となった。また、参加人数については、感染拡大防止のため定員を少なく設定していたほか、事業内容を精査し、教育普及目的の事業に絞って参加者をカウントしたため、見かけ上減少したと考えられる。
⑥	公民館や学校等からの依頼で講師として職員派遣を行った回数は、年間70回前後を推移しており、令和4年度はコロナ以前と同程度の回数となった。コロナ禍の令和2年～3年は、コロナ以前はほぼ皆無であったオンラインでの講演や講座の依頼があったものの、令和4年度はほとんどが対面で実施された。
⑦ ⑧	市民ボランティアとして活動している市民の会の多くが、コロナ禍において活動を休止していたが、令和4年度はその多くが再開した。ただし、主な活動テーマであった資料の整理作業が完了するなどして、2つの会が活動を終了した結果、10団体(登録者数238名)となった。また、活動への参加者数は令和4年度が1,615人で、平成30年度と比較すると56.2%となっている。これは、活動再開後も作業に必要な最小限の人数に絞るなどした影響が大きい。
⑨	ホームページアクセス数は、令和4年度は62万回となり、平成30年度と比較して105.5%で、他の数値と異なる傾向を示した。

【5年間(平成30年度～令和4年度)の推移について】

<p>・過去5年間の数値は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う休館期間が令和元年度の末から令和3年度まで断続的に続き、再開時にも講座講演、プラネタリウム等の定員制限を設けたことから、数値の特殊性が際立つ。ただし、令和4年度はほぼすべての定員がコロナ以前と同程度に戻り、検温や手指消毒等を除いて在館時の制限などもほぼ解消している。その中でもコロナ以前と比較して数値的にはやや減少傾向が見られる。</p> <p>・5年平均の数値はコロナ禍のさなかにあった令和2年～3年を含むため、傾向を知るための基準とはならない。今後、さらに数年経った後にコロナ禍の影響を考える上で意味を持つと考えられる。</p>
--

Ⅲb 定性評価

評価の数値について

4:特に優れた成果をあげている。また、その取組の成果が大いに期待される。

3:優れた成果をあげている。また、その取組の成果が期待される。

2:想定された相応の成果をあげている。また、取組のさらなる進展が望まれる。

1:期待された成果に及んでいない。また、取組が不十分である。

※「段階評価」および「有識者評価」の数値は有識者による数値評価の平均点である。

有識者意見について

有識者からいただいたコメントを原文のまま記載した。

定性評価項目及び評価

評価項目	自己評価	有識者評価	段階評価
1 博物館の基礎的な機能を果たすための必要な活動			
1-1 資料収集及び調査研究とその成果の公表			
1-1a 調査研究の遂行	3	3.3	3.0
1-1b 収蔵資料の充実	3	2.9	
1-1c 収蔵資料の活用	3	2.9	
1-2 施設・環境の維持管理			
1-2a 資料保管のための適切な環境の維持	3	3.0	3.0
1-2b 施設・設備の維持管理	3	3.0	
2 展示教育普及事業の推進			
2-1 企画展示・教育普及事業の実施			
2-1a 企画展示・ミニ展示の開催	3	3.3	3.4
2-1b 教育普及事業の実施	4	3.4	
2-2 宇宙教育普及事業の実施			
2-2a 宇宙分野関連の企画展示・ミニ展示の開催	4	3.6	3.5
2-2b 宇宙分野関連の教育普及事業の実施	4	3.4	
2-3 様々なメディアを用いた情報発信の取組			
2-3a インターネットによる情報発信	3	3.0	3.0
2-3b その他の情報発信	3	3.0	
3 市民との協働による博物館活動の展開			
3-1 市民協働による調査研究・資料収集活動			
3-1a 市民との協働による調査研究	3	3.0	3.0
3-1b 市民との協働による資料収集・整理	3	3.0	
3-2 市民協働による展示教育普及事業			
3-2a 市民との協働による教育普及事業	3	3.0	3.1
3-2b 市民との協働による博物館活動の成果発表	3	3.1	
4 市関連施設・機関との連携			
4-1 関連機関との連携			
4-1a 他機関・団体への講師派遣、協力	3	3.1	3.5
4-1b 他機関での展示	4	3.6	
4-1c 他機関と連携した事業	4	3.7	
4-2 学校等への学習支援			
4-2a 出前授業	3	3.0	2.9
4-2b 資料貸出による学習支援	2	2.2	
4-2c 見学・職業体験・教員研修・博物館実習生の受入	4	3.4	

1 博物館の基礎的な機能を果たすための必要な活動

1-1 資料収集及び調査研究とその成果の公表

段階評価
3.0

1-1a 調査研究の遂行

【主な取組】

- ・考古分野：川坂遺跡出土品の整理、文化財保護課と神奈川県公園協会と共同で津久井城跡城坂曲輪群 7 号曲輪の市民協働による発掘調査。
- ・民俗分野：寄贈された竹細工道具の整理及び資料調査、市内の民俗に関する写真の再確認。
- ・歴史分野：中世から近現代の歴史資料・史跡についての調査、ボランティアグループ「水曜会」と協働した津久井郷土資料室旧蔵資料の整理について研究報告 31 集に掲載。
- ・生物分野：市内の動植物相調査及び、その中で明らかになった絶滅危惧生物の保全、増殖のための調査について近隣大学等と連携しながら実施。木もれびの森のチョウの生態について市民と協働で調査し、研究報告 31 集に掲載。
- ・地質分野：相模原市内、相模川・桂川流域及び関東平野西縁部の地形地質調査を実施し、研究報告 31 集に掲載。相模野台地の微地形調査を相模原地質研究会と協働実施、富士相模川泥流堆積物について東京都立大学と共同研究。
- ・天文分野：宇宙教育普及事業を推進するための新しい教育普及手法の検討、プラネタリウム学習投影用プログラムについて内容の研究、カノープスが見える市域の調査や撮影を実施。

自己評価
3

【有識者意見】

- ・市民や大学などとの協働は、高く評価される。
- ・調査研究は学芸活動の基本を支えるものであり、博物館の重要な機能の一つである。博物館は多くの教育普及事業や展示を行っているので、学芸員がオーバーワークとならないよう、行政や管理者には是非理解を願いたい。学芸員の専門性を担保する上でも、他機関や施設との共同研究ならびに学会への参加や研究報告が積極的にできる環境整備を望む。
- ・限られた予算以上の成果を挙げていると言える。財政難とは言え、調査研究経費が 10 人いる学芸班に 4 年度で 1087 千円、5 年度で 924 千円という予算は、政令市としてあまりにも嘆かわしい事態である。
- ・年報における重点目標・施策に沿った取り組みであると思う。博物館の中に留まらず、こう

して市民や他大学と共同で活動をすることで、より広く深い事業への発展も期待できると考
える。

- ・天文分野のカノープスの調査報告は、興味深いです。相模原市の空では観察が難しい星
の撮影画像を紹介して頂けたことは貴重なことですし、また機会をみて市民に紹介してい
たきたいです。貴重な活動ありがとうございます。

有識者評価

3.3

1-1b 収蔵資料の充実

【主な取組】

- ・博物館全体：令和 4 年度末の時点で博物館収蔵資料点数は 263,202 点（前年度比 1.02%増）。特に増加したのは歴史資料であり、約 2,000 点の新規登録。
- ・考古分野：発掘調査報告書刊行済の出土品の受入及び再整理、寄贈資料の整理作業、鉄製品の保存処理。
- ・歴史分野：寄贈・寄託（予定含む）資料の分類整理、尾崎行雄（号堂）関係資料の分類整理、旧津久井郷土資料室所蔵資料の整理。
- ・民俗分野：民俗資料の収集、収蔵資料のカード・収蔵番号の整備、旧津久井郷土資料室所蔵資料の確認等の諸整理。寄贈された竹細工道具の整理。収蔵資料と市内の民俗に関する写真についての再確認や整理。
- ・生物分野：動植物資料の収集及び標本の作製・整理、適正な保管を目的とした点検作業。
- ・地質分野：地質資料の収集及び標本の作製・整理、収蔵資料の整理。
- ・天文：分野天体・天文現象・太陽の撮影やデータの整理。インターネットによる公開天文台ネットワーク等からの画像収集。

自己評価

3

【有識者意見】

- ・人文系資料では寄贈や行政発掘など個別（偶発的）資料の収集や整理に追われることなく、市民が誇れる相模原市立博物館としての体系的コレクションの形成を目指してほしい。
- ・昔の資料だけでなく、平成・令和期の資料収集も必要なので、今後も計画的な収集をお願いしたい。積極的に資料の提供を市民に呼びかけるなどして、失う前の収集を検討してほしい。
- ・収蔵資料類のストックは増加傾向にあると思われるが、現状の収蔵庫での収蔵能力が限界を超える懸念があるならば、新たな収蔵スペースの確保は急務である。統廃合で廃校となった教室などの再利活用も一考であろう。
- ・各分野ごとの収蔵資料は、データベース化した上で、全分野を統合して一括管理・利用できることが望まれる。
- ・新たな資料を収集するだけに留まらず、再整理や点検にも力を入れていることで、資料の収集、保管という博物館の役割を果たしていると思う。
- ・以前、資料の整頓にはかなりの時間と手間がかかると伺ったが、効率化のためにどういたことが出来るかぜひ知りたいと思った。

有識者評価

2.9

1-1c 収蔵資料の活用

【主な取組】

- ・他館への資料貸出、調査研究のための資料閲覧、写真データの提供等、令和4年度の資料の特別利用は92件。
- ・寄贈された竹細工道具についての企画展や新収蔵品を活用した考古企画展等、特別展示室での企画展を7件開催。
- ・東京2020大会のレガシーとして博物館に収蔵されている大会関係資料や令和5年の干支(卯)にまつわる博物館資料の紹介等、エントランスや常設展示室内等でミニ展示を19件開催。

自己評価
3

【有識者意見】

- ・博物館外へ貸出可能な収蔵資料や標本類などを記した一覧表やファイルなどは整備されているのか。
- ・ミニ展示という取り組みにより、定期的なリピーターを確保できていると思う。

有識者評価
2.9

1-2 施設・環境の維持管理

段階評価
3.0

1-2a 資料保管のための適切な環境の維持

【主な取組】

- ・収蔵庫及び作業室を対象に、各種トラップを用いて有害生物の侵入状況を調査。大型資料収蔵庫シャッター付近床面への薬剤散布の実施。
- ・カビ及び酵母を対象に空中浮遊菌検査の実施。
- ・大型資料収蔵庫、考古資料収蔵庫、動植物資料収蔵庫の空間殺虫処理の実施。
- ・受入資料を対象に、殺菌、殺虫、殺卵のため、ガス薬剤を用いて洗浄・乾燥室において被覆法によりくん蒸を実施。

自己評価
3

【有識者意見】

- ・収集した貴重な資料類を長期にわたって保管・管理することは地味な作業であるが、大事な取り組みである。今後も館内の収蔵施設の維持管理のため、定期的な環境維持作業の継続を望む。
- ・博物館運営のためには、収集した資料をどう守っていくかが課題であるが、こういった定期的な取り組みにより、常に良好な保存状態が維持されているのを感じた。実際にどれくらい有害生物がいたのかや、左右をしなかった場合どうなるのかは個人的に知りたいところである。
- ・近い将来に向けて、収蔵庫の増床について検討が必要な時期と考える。

有識者評価
3.0

1 - 2b 施設・設備の維持管理

【主な取組】

- ・安心、安全な環境を維持し、さらに快適で魅力ある施設運営のため、下記の設備整備、修繕等を実施。
 - ・博物館内のフリーWi-Fiの再整備
 - ・常設展示室へのスマートフォン等を活用した多言語対応の展示ガイドの導入
 - ・吸収冷温水機気密不良箇所修繕
 - ・冷却塔モーターベアリング等修繕
 - ・誘導灯修繕
 - ・雨漏り修繕
 - ・毎月月初めに、清掃点検票に基づき、清掃点検

自己評価

3

【有識者意見】

- ・来館者に対する、より充実したサービスの一環として、Wi-Fiの整備やスマートフォン活用による多言語対応の展示ガイドの導入は必須項目である、これらの利活用を推進するためのPRや広報がやや物足りない(利用法の表示が目立たない)ように感じられる。
- ・博物館は私が子供の時から社会人になった今まで、学びの場であると同時に快適な居場所であると感じます。これからもそうあってほしいです。

有識者評価

3.0

2 展示教育普及事業の推進

2-1 企画展示・教育普及事業の実施

段階評価
3.4

2-1a 企画展示・ミニ展示の開催

【主な取組】

※天文分野を除く(天文分野 2-2a)

・企画展示

- ・考古分野(神奈川県教育委員会との共催含む)、民俗分野、生物分野の企画展、学習資料展を開催。観覧者数 76,151 人、入館者数全体の来場者数の割合は平均して 61.8% (前年度は 57.1%)。
- ・ギャラリートーク、トークショー、観察会、観望会、講演会、親子天文教室、紙芝居実演、ワークショップ、展示解説等の企画展関連事業の実施。

・ミニ展示

- ・考古分野、民俗分野、歴史分野、地質分野、市史分野、博物館実習生、十二支関連のミニ展示を開催。
- ・「尾崎行雄を全国に発信する会」へ委託し、ミニ企画展「尾崎行雄(罌堂)の桜と相模原市の桜」を開催。
- ・吉野宿ふじや
 - ・「NPO 法人ふじの里山くらぶ」へ委託し、企画展を開催。
 - ・山下勉 絵画展、観覧者数 477 人
 - ・「甲州道中(相模湖・藤野・上野原)のおひな様」展、観覧者数 395 人

【市民の意見】

(企画展アンケートより)

- ・以前来館した時より展示内容が充実してきた印象がある。さらに充実させてほしい。
- ・昔の学校にあったものや道具を見て、初めて見た人は興味を持った、昔使っていた人は懐かしかった。
- ・竹編みと竹割きが、ものは知っていたけど実際に本格的にやっている様子を見るのは初めてで面白かった。
- ・たまたま入って見たのですが、とても良い企画展でした。ありがとうございます。
- ・オリパラ展示が目的でしたが、他の展示物も見応えがあり楽しめました。
- ・いつも様々な展示や課題提起ありがとうございます。色々と身近な暮らし風景から学ぶことが多くライフワークのヒントをいただいています。

(尾崎罌堂記念館アンケートより)

- ・現代社会と民主政治を考える視点に出会えた。
- ・市として桜のPRに力を注ぐ必要性を痛感した。
(吉野宿ふじやアンケートより)
- ・どの絵も力強く生命力を感じた。
- ・地元でこのような芸術に尽くされた方がいらっしやることを嬉しく思った。
- ・改めて水彩画の素晴らしさを感じた。
- ・時代ごとに一点ずつ心を込めて作られ、大切に飾り保管されてきたものであると感じた。これからも大事に文化を守っていきたいと思った。
- ・今のおひな様と昔のおひな様の違いが分かった。
- ・古いものは今となっては大変珍しいため、よい機会となった。最近は雛人形を飾ることも少なくなったことから、子どもに見せることができよかった。

自己評価

3

【有識者意見】

- ・新型コロナウイルスの感染拡大防止に配慮して、可能な限り企画展やミニ展示を実施したことは高く評価できる。
- ・来館するたびにエントランスのミニ展示が目新しく、効果的であると思う。企画展やミニ展示の成果を常設展示に反映されるような取り組みが必要であろう。
- ・少ない展示経費の中での努力が窺える。
- ・生活に身近なものの展示は、実物を見ることで多世代間のつながりを促すことが期待できる。「学校にあったもの」は、全世代が共通して懐かしく感じたのではないか。
- ・アンケートの内容からも、来た人にとって非常に満足度の高い展示であったことが伺える。

有識者評価

3.3

2-1b 教育普及事業の実施

【主な取組】

※天文分野を除く(天文分野 2-2b)

- ・2件(地質分野1件、考古分野1件)の講座を開催。延べ参加者数146人。
- ・2件(歴史分野1件、民俗分野1件)の講演会を開催。延べ参加者数149人。
- ・4件(地質分野1件、民俗分野2件、その他1件)の体験学習を開催。延べ参加者数305人。
- ・2件(生物分野1件(全12回)、歴史分野1件)の観察・探訪会を開催。延べ参加者数338人。
- ・2件のクイズラリーを開催。延べ参加者数1,110人。

【市民の意見】

(講座等アンケートより)

- ・もう少し深入りした内容でも良かった。
- ・知らない事がほとんどで、今後の学ぶ方向につき手がかりを得る事ができました。
- ・はじめて聞くことが多かった。調査している方ならではのと思いました。
- ・実物を見せて説明して下さったのでわかりやすかったです。

自己評価

4

【有識者意見】

- ・博物館利用者・活用者の学習要求、「知りたい」、「極めたい」などに基づくカリキュラムの編成が求められる。
- ・市民にとって、学芸員の話や資料や標本に触れたりする学習はとてもインパクトのある体験となって記憶されるので、今後もより多くの講演や体験学習などを実施していただきたい。
- ・講座数や参加者数が目標値を大きく超えた点を4としているのか、参加者の満足度が極めて高く4としているのかが不明。両者が達成されていれば4としたい。
- ・初学者からより深く学びたい人まで幅広い層が居る中で新たな教育普及のための内容を考えるのは大変だろうと思う。このような取り組みがあることで、どんな市民でも教養を得られる機会があるのはありがたい。
- ・クイズラリーは、夏休み等、親が子どもを博物館に誘うきっかけになり、そのあとも足を運ぶ機会が増えそう。

有識者評価

3.4

2 - 2 宇宙教育普及事業の実施

段階評価
3.5

2 - 2a 宇宙分野関連の企画展示・ミニ展示の開催

【主な取組】

- ・JAXA 連携企画展「相模原と月 vol.2～太陽系惑星の月たち～」を開催。総観覧者数 21,830 名。
- ・「全国小・中学生作文絵画コンテスト」(JAXA 事務局)において、当館に応募された作品のうち、館内審査で入賞した作品を展示。
- ・プラネタリウムで上映した全天周映画「富士の星暦」で取り上げられた四季の星空と富士山の絶景写真を紹介するミニ展示の開催。
- ・はやぶさの日記念「小惑星リュウグウサンプルのレプリカ」展示を開催。
- ・JAXA 相模原キャンパス宇宙科学探査交流棟内の博物館資料展示スペースにおいて、ガリ版印刷機(民俗分野)(令和 4 年 2 月～)を開催。

【市民の意見】

(企画展アンケートより)

- ・月についての必要性や昔ながらの伝統等たくさんの大事な情報を知り、夏季課題で役立ちそう。
- ・月の天体的特徴についてだけでなく、月に関する地域の文化や、JAXA との共同展示だからこその研究開発にふれた内容等話の範囲が幅広く面白かった。
- ・月という身近な展示があって子どもたちも興味をもっていました。
- ・月の行事が相模原市で行われていた事や月待塔がたくさん建てられている事を初めて知りました。
- ・JAXA と連携することで深みを感じました。
- ・JAXA とのつながりを活用した展示を今後も期待しています。

自己評価
4

【有識者意見】

- ・JAXA との連携も重要であるが、JAXA に頼らない博物館独自の企画を展開し、次世代につなげていくことも検討してはどうか。博物館独自の事業のアピールも進めていくべきである。博物館が取り扱う分野を拡張してテクノロジーやエンジニアリングの部門もカバーしてはどうか。

- ・4とした根拠を詳しい説明が欲しい。
- ・情報の移り変わりの多い宇宙についての展示は、とても楽しく、来るたびに新しいことを知ることが出来るため、これからも続けていってほしいと思う。
- ・JAXA の評価や JAXA が抱えている課題などを、博物館として発信することが JAXA との連携になると考えます。

有識者評価

3.6

2-2b 宇宙分野関連の教育普及事業の実施

【主な取組】

- ・JAXA 宇宙科学研究所と連携した講座 2 件、講演会 8 件(うち、1 件は企画展関連事業)を実施。講座延べ参加者 159 人、講演会延べ参加者 775 人(うち、オンライン 25 人)。
- ・JAXA 相模原キャンパス特別公開における各種イベント等、JAXA と連携した体験学習事業を 7 件実施。延べ参加者 793 人。
- ・新事業、相模川ビレッジ若あゆとの連携事業「博物館×若あゆ 宇宙&野外炊事イベント」を実施。両施設を事業で利用。参加者 40 人。
- ・新事業、天体観望事業「ナイトプラネタリウム&観望」を実施。月 1 回(計 12 回)開催。延べ参加者 461 人。
- ・昼間の天体観望事業「昼間の月をみよう!」を実施。参加者 119 人。
- ・「親子天文教室」を実施。参加者 37 人。
- ・プラネタリウムを利用したコンサート事業を計 2 事業、落語鑑賞会&トークショー事業を 1 件(JAXA 宇宙科学研究所と連携した講座・講演会にも含む)実施。コンサート参加者計 422 人、落語鑑賞会&トークショー参加者 231 人。
- ・プラネタリウムにおける星空解説の実施、全天周映画の上映。観覧者数 48,147 人(うち、11,255 人が学習投影等団体向け貸切投影)。
- ・プラネタリウムにおいて日曜日・祝日限定の「おためしタイム」事業を実施。観覧者数 2,664 人(計 66 回投影)。

【市民の意見】

(親子天文教室アンケートより)

- ・望遠鏡に関しては工作も楽しかったし、しかもすごくきれいに見えたからうれしかった。
- ・宇宙にとっても興味があり、望遠鏡をほしがっていたので、このイベントの再開を待っていたので参加できてよかったです。はじめての望遠鏡を自分で手作りできて、大切にしてくれそうなので貴重な体験ができました。ありがとうございました。これからも望遠鏡を大切にします。

自己評価

4

【有識者意見】

- ・市民との協働による観望事業の充実が望まれる。
- ・宇宙教育には気象分野も含まれており、人々の生活と宇宙や気象のかかわりがわかるような事業を、市民活動とうまく結びつけて展開すべきである。
- ・プラネタリウムがある博物館という特色を生かし、宇宙や天文学が身近に感じられる各種事業やイベントが開催できるのは市民にとって多くのメリットがある。さらに多くの幅広い市民に関心や興味を持ってもらうために、プラネタリウムを活用しながら夜や昼の観望会、プ

ラネタリウムでの音楽コンサートやトークショー、講演会などの新企画事業も積極的に開催すべきである。特にプラネタリウム施設を舞台にしたコンサートなどはユニークな取り組みとして話題性もあり、継続することでファミリー層や高齢者の市民への参加も促したい。

- ・ドームで上映する全天周映画の内容も、天文や宇宙に関する科学教材的なものだけでなく、生き物、恐竜、化石、海、魚、鳥、動物、昆虫、植物など、幅広い題材をテーマとした映画の上映はできないか。
- ・天文分野以外同様で、講座数や参加者数が目標値を大きく超えた点を 4 としているのか、参加者の満足度が極めて高く 4 としているのかが不明。両者が達成されていれば 4 としている
- ・プラネタリウムのコラボ企画は、 $1+1=2$ の相乗効果が集客につながっている
- ・プラネタリウムの放映はもちろん、コンサートなどのイベントがあることで、繰り返し行きたいという気持ちになる。これからも沢山の企画に期待している。

有識者評価

3.4

2-3 様々なメディアを用いた情報発信の取組

段階評価
3.0

2-3a インターネットによる情報発信

【主な取組】

- ・プラネタリウムの番組情報や混雑状況、イベント情報の発信や、天体・天文現象の写真や動画、博物館の日常の風景や展示等を紹介。主な媒体は下記のとおり。
- ・博物館のホームページ
- ・公式 SNS (Twitter、2 月に開設した Instagram)
- ・「相模原市立博物館の職員ブログ」
- ・「ネットで楽しむ博物館(公式 YouTube チャンネル)」

自己評価
3

【有識者意見】

- ・ホームページや動画は、若い世代に向けて情報発信をするためには有効な手段である。できるだけ若い世代の意見を取り入れて、随時内容の更新を図るべきである。
- ・スマートフォンでホームページを閲覧する方も多いので、フォントや色使いなどスマートフォンでも見やすくなるような工夫をするべきである。また若い世代には SNS を活用した情報発信が効果的なので、さらなる活用を検討してほしい。
- ・SNS を活用した情報発信は、イベントだけではなく研究成果なども含めた博物館の価値を提供すべきである。
- ・HP や SNS は博物館を知る一番身近なツールで、費用体効果を考えても今後も充実して欲しい。「いいね」を押すだけでなく画像を見て、来館につながるようになって欲しい。
- ・インスタグラムの写真は美しく、ちょっとした専門性もあり勉強になる。若い世代だけでなく SNS が苦手な世代も見ると楽しめることが伝わるという。
- ・実際に来場してもらうのが目的ではあるが、SNS の運営により力を入れることにより、「みんなの知っている博物館」として普段博物館に来ないが SNS を利用する層への人目を広めるのはどうだろうか。
- ・「ネットで楽しむ博物館」は動画で楽しむこともできるので、理解しやすい。今後も内容の充実をお願いしたい。
- ・小中学校でもタブレットやパソコンが授業に取り入れられているため、日常的な学習の一環として、博物館の動画を教材として使うことができれば良いと思う。

- ・発信分野(人)に偏りが見える。SNS によるメディア機能は、博物館活動の主体者である市民と創り上げていくことが大切だと思います。
- ・なかなか、博物館に足を運ばずにいるのでホームページを開いています。毎回、博物館は楽しいところだと感じさせてくれます。

有識者評価

3.0

2-3b その他の情報発信

【主な取組】

- ・広報さがみはらへの博物館諸活動の掲載。
- ・報道機関への情報提供等、メディアを多角的に広げた情報発信。
- ・博物館の事業を一覧できる資料として、「博物館イベントニュース」の発行(年12回)。
- ・タウン紙への企画展紹介コラムや常設展示紹介等の不定期連載。
- ・FMHOT839(エフエムさがみ)、FMヨコハマ「KANAGAWA Muffin」(神奈川県広報番組)等、ラジオ番組による企画展、イベントの情報発信。

自己評価
3

【有識者意見】

- ・毎月作成されているイベント・ニュースの尾崎隼堂記念館と吉野宿ふじやに関してですが、この場所がなんなのか？が分からず興味を持ちにくいと思います。「ニューヨークへ桜を届けた日本を代表する政治家！尾崎隼堂を学べる！尾崎隼堂記念館」とか「江戸時代に甲州道中の宿場で参勤交代の常宿として栄え吉野宿ふじや」など少し語彙を増やされたほうが「見たい！知りたい！」「子供に伝えたい！」という市民の心に感情が生まれやすいと思います。毎月のニュース作成ありがとうございます。
- ・「イベントニュース」を市内の全小中学校に配布することも検討すべきである。
- ・高齢者への広報は、アナログの方が効果的と思う。「イベントニュース」の有効活用として各自治体等への回覧や配布を検討していただきたい。
- ・「博物館イベントニュース」からは、興味のある事業を逃さず事前に知ることが出来ています。
- ・ややイベントニュースの紙面デザインが見づらいと感じる部分がある。
- ・インフォメーションに付けられているQRコードから、博物館の多彩な情報が簡単に得られて楽しくて嬉しい。

有識者評価
3.0

3 市民との協働による博物館活動の展開

3-1 市民協働による調査研究・資料収集活動

段階評価
3.0

3-1a 市民との協働による調査研究

【主な取組】

- ・考古分野：津久井城市民調査グループとの協働で津久井城跡城坂曲輪群 7 号曲輪の発掘調査を実施。
- ・民俗分野：民俗調査会と協働で近世の村等テーマを決めて市内外のフィールドワークを実施。
- ・生物分野：相模原植物調査会と協働で市域の植物相調査を実施。
- ・地質分野：相模原地質研究会と協働で市域の地形調査を実施。

自己評価
3

【有識者意見】

- ・市民協働は博物館活動の主軸である。市民が博物館活動に参加することのメリットは博物館にとって非常に多い。多くの市民団体に支えられており、今後も協働で調査研究を遂行するようにお願いしたい。
- ・市民との協働による調査研究の成果は、「学びの収穫祭」を含む館内展示や報告書などの印刷物として公表するように努めてほしい。
- ・課題にあげられている高齢化による市民の会の参加減少の件ですが、単に高齢だからという抽象的な理由だけでなく、例えば、「免許を返上したため、参加する場所までの手段を失った」とか「妻または夫の介護で時間が取れないが協同参加する時間帯だけ誰かにお願いできるなら、市民として博物館と協働作業したい」とか「どなたかの付き添いの協力があれば共同作業が可能である」とかもう少し、参加減少の具体的な理由が分かれば、高齢化社会といえ、元気な高齢者も多くいるので対策が立てられると感じました。

有識者評価
3.0

3-1b 市民との協働による資料収集・整理

【主な取組】

- ・考古分野：相模原縄文研究会と協働で寄贈された考古資料の整理を実施。
- ・民俗分野：福の会との協働で寄贈された竹細工道具等資料の整理を実施。
- ・歴史分野：旧津久井郷土資料室に保管されていた鈴木重光氏から寄贈された資料のうち、未整理のものについて、水曜会と協働で目録化等整理を実施。
- ・生物分野：相模原植物調査会と協働で標本作製・整理を実施。相模原動物標本クラブと協働で、冷凍保存していた鳥獣の標本化を実施。
- ・地質分野：相模原地質会と協働でお茶の水女子大より寄贈された標本の整理を実施。
- ・天文分野：相模原市立博物館天文クラブと協働で、身近な天体や皆既月食等天文現象について撮影し、資料化。

自己評価

3

【有識者意見】

(意見なし)

有識者評価

3.0

3 - 2 市民協働による展示教育普及事業

段階評価
3.1

3 - 2a 市民との協働による教育普及事業

【主な取組】

- ・博物館の資料収集や整理、保存等の専門領域をはじめ、展示教育普及事業に至る活動を協働で実施。
- ・市民学芸員：学習資料展の企画・準備と関連事業を協働で実施。
- ・考古分野：相模原縄文研究会や津久井城市民調査グループと協働で考古企画展の準備作業の実施。
- ・民俗分野：福の会と協働で資料整理の成果として竹細工展の開催。
- ・地質分野：相模原地質研究会と協働で講座や教室の準備と運営、地質企画展の準備作業の実施。

自己評価
3

【有識者意見】

- ・博物館活動の主体者である市民と創り上げていくことが大切です。

有識者評価
3.0

3-2b 市民との協働による博物館活動の成果発表

【主な取組】

- ・市民による調査研究活動の成果発表の場である「学びの収穫祭」を開催。活動成果の発表、市民の会相互理解の推進、情報交換の場の確保。
 - ・11月19日：口頭発表
 - ・11月19日～12月16日：ポスター展示
- ・発表団体数、発表件数等は下記のとおり。
 - ・口頭発表：参加団体数5団体、発表件数7件
 - ・展示発表：参加団体・個人数18団体、3個人、発表件数30件
 - ・発表団体名：
相模原市立博物館天文クラブ、大野村いつきの保育園、相模原市自然環境観察員、光明学園相模原高等学校 理科研究部、昆虫文化を子供たちに伝える会、相模原市立博物館市民学芸員情報発信チーム、城山公民館城山エコミュージアム委員会、さがみはら水生動物調査会・NPO 法人篠原の里、相模原植物調査会、相模原縄文研究会、相模原地質研究会、福の会、民俗調査会、神奈川県立相模原弥栄高等学校サイエンス部、東京工業大学附属科学技術高等学校科学部「スゴはや2プロジェクト」

自己評価

3

【有識者意見】

- ・「学びの収穫祭」での成果発表は有意義であり、是非継続することを期待するが、ポスター展示にとどまるのではなく、発表要旨集などの印刷物として成果を記録・保管していただきたい。
- ・博物館活動の主体者である市民と創り上げていくことが大切です。
- ・博物館協議会委員となり、それまであまり見えてこなかった市民の充実した活動概要を知ることができました。
- ・市民協働は社会教育の本旨だと感じます。

有識者評価

3.1

4 市関連施設・機関との連携

4-1 関連機関との連携

段階評価
3.5

4-1a 他機関・団体への講師派遣、協力

【主な取組】

- ・他機関や団体からの講師依頼件数及び参加者延べ人数は、50 件 1,052 人。(学校への出前事業を除く。学校への出前事業 4-2a)
- ・「麻溝の地域遺産を未来につなぐ会」からの依頼による、下溝遺跡群(縄文時代)の遺跡説明板の設置について、写真提供、説明文案の校正。
- ・環境情報センターの自然環境観察員制度や分科会調査に対し、専門の立場からアドバイス。
- ・各種団体の役員等は下記のとおり。
 - ・全国野生生物保護活動発表大会審査員
 - ・令和 4 年度愛鳥週間野生生物保護功労者表彰選考審査員
 - ・「神奈川自然誌資料第 44 号」編集委員
 - ・相模川水系相模川・中津川河川整備計画フォローアップ委員会委員
 - ・相模川ふれあい懇談会会長
 - ・わお！な生きものフォトコンテスト特別審査
 - ・立川市史編集委員
 - ・群馬県立自然史博物館投稿論文査読者
 - ・神奈川県博物館協会幹事
 - ・神奈川地学会幹事
 - ・日本地質学会代議員
 - ・日本地質学会関東支部幹事

自己評価
3

【有識者意見】

- ・学芸員は他機関・団体への講師派遣や会議・委員会出張なども大事な業務と捉え、オーバーワークにならない範囲内で協力に伝えていただきたい。

有識者評価
3.1

4-1b 他機関での展示

【主な取組】

- ・ミニ企画展「尾崎行雄の不戦運動」を下記の市内公共施設で巡回展示。
 - ・尾崎号堂記念館、来場者 137 人
 - ・総合学習センター、来場者 888 人
 - ・南区合同庁舎、来場者カウントなし
 - ・橋本図書館、来場者 43,973 人
- ・大河ドラマ「鎌倉殿の 13 人」関連ミニ展示「鎌倉時代初めの相模原の武士団 横山党」を下記の会場で巡回展示。
 - ・吉野宿ふじや、来場者 219 人
 - ・尾崎号堂記念館、来場者 379 人
 - ・麻布大学いのちの博物館、来場者 2,084 人
- ・市民学芸員との協働によるミニ展示「相模原ふるさといろはかるた」を麻布大学いのちの博物館で出張展示。来場者数は 686 人。
- ・出張展示「JOMON ミニ博物館がやってきた!さがみはら JOMON まなびのスポット」をアリオ橋本で開催。来場者数は 1,341 人。

自己評価

4

【有識者意見】

- ・博物館のミニ展示の巡回は非常に良い取組であったと思う。今後も継続して実施をお願いしたい。尾崎号堂記念館や吉野宿ふじやに足を運んでもらう良いきっかけとなっただけでなく、遠方の市民に博物館を周知する機会になったと思う。
- ・麻布大学いのちの博物館での出張展示等、新たな試みがあり評価できる。
- ・巡回展示の市民のアンケートが知りたかった。
- ・来場者数だけの記載でなく、一日あたりの来場者数がわかるように展示日数の記載もお願いしたい。

有識者評価

3.6

4-1c 他機関と連携した事業

【主な取組】

・相模原市の他の部署及び市内外の様々な機関等と連携して、スタンプラリーや工作教室、体験イベント、ミニ展示、講演会等多岐にわたる内容で活動を展開。その具体的な連携相手と内容は下記のとおり。

- ・中央区地域振興課：オンライン講話、天体観望会
- ・相模川自然の村体験教室：天体観望会
- ・生涯学習センター：講演会
- ・中央区役所：現地探訪会
- ・観光・シティプロモーション課：フォトスポットの設置、プラネタリウム観覧者へのカードプレゼント等
- ・市立図書館：出張展示、関連ブックリストの作成・配布、貸出期限票裏面での企画展紹介、SNSでの相互フォローやリツイート等の広報活動
- ・スポーツ推進課：ミニ展示
- ・下水道経営課：ミニ展
- ・文化財保護課、みんなのSDGs推進課、文化事業等連絡協議会：スタンプラリー
- ・中央地区自治会連合会、中央地区宇宙教室実行委員会、中央地区社会福祉協議会、中央地区青少年健全育成協議会：講座
- ・相模原市民文化財団：講演会
- ・尾崎行雄を全国に発信する会：企画展、講演
- ・「NPO法人ふじの里山くらぶ」：企画展
- ・JAXA：企画展、講演会、宇宙科学探査交流棟の展示、体験学習
- ・株式会社ノジマ：体験学習
- ・NHK 横浜放送局：大河ドラマ出演者等身大パネル展示
- ・日本スペースガード協会、国立天文台、日本惑星協会、宮城県角田市、角田市地域振興公社、星空公団：講演会
- ・宇宙科学振興会：講演会、体験学習、スタンプラリー
- ・麻布大学いのちの博物館、アリオ橋本、総合学習センター、南区合同庁舎、橋本図書館：出張展示
- ・麻布大学：体験学習

自己評価

4

【有識者意見】

- ・他機関での講演会や各種展示会などは、普段博物館にこない市民へ博物館の存在を印象付ける良い機会となる。今後も積極的に講師派遣や展示会、イベント開催などを推進してほしい。
- ・興味意識の高い層をターゲットに催されている。アフターコロナにおいて、それが巡回展示・

- 企画展の来場者数につながっているのではないか。
- ・麻布大学いのちの博物館での出張展示等、新たな試みがあり評価できる。

有識者評価

3.7

4 - 2 学校等への学習支援

段階評価
2.9

4 - 2a 出前授業

【主な取組】

- ・保育園・小中学校・高校・大学等からの講師依頼件数及び聴講者延べ人数は、27 件 968 人。主な内容は下記のとおり。
- ・保育園：鳥のおはなし、石のおはなし
- ・小学校：カイクのはなし、道具の移り変わり
- ・中学校：職業講話、考古学講座
- ・高校：ホテル観察会、考古学講座、地質学講座と現地観察会、生物多様性について
- ・大学：鳥類学実習、動物学実習、地学実験、博物館見学実習

自己評価
3

【有識者意見】

- ・専門家である学芸員から話を聞くことは、幼児から学生までが地元の歴史・文化や博物学に触れる良いきっかけとなる。各学校だけでなく、他の多くの教育施設をはじめ、地域の様々な施設と連携を強化すべきである。
- ・オンラインでの出前授業を検討すべきである。

有識者評価
3.0

4-2b 資料貸出による学習支援

【主な取組】

- ・博物館資料の貸出しキットの市内小中学校への貸し出しは6件。内容は下記のとおり。
 - ・糸車(小学1年生 国語「たぬきの糸車」)2件
 - ・火のし、炭火アイロン、電気アイロンほか全5点(小学3年生 社会「かわる道具とくらし」)1件
 - ・昭和ってすごい時代体感キット(小学3年生 社会「かわる道具とくらし」)1件
 - ・縄文体験キット(小学6年生 社会「歴史」)1件
 - ・火縄銃(中学2年生 社会「戦乱から全国統一へ」)1件

【市民の意見】

(貸出しキットを利用した教員からの意見)

- ・実物に触れることにより、子どもたちでなく教員も貴重な体験ができたと感じている。
- ・写真だけだと質感が分からないが、実物を見ることにより、質感まで体感できたことは非常によかった。
- ・日常で昔の道具等を見る機会は少ないため、実物に触れることでイメージを掴めたようだ。

自己評価

2

【有識者意見】

- ・貸出しキットの存在を知らない教員もいると思うので、貸出可能なキットの一覧表の公開と共に利用を促す広報活動も必要ではないか。
- ・貸出件数が少なかったことの背景の説明が必用。
- ・学校授業の理科・社会科だけでなく音楽や美術などすべての授業で活用できる教材があるのではないか？
- ・先生方があまり利用されないのにはどんな理由があるのか？HPから貸し出し方法を調べられるのか？
- ・インターネットを活用するなど様々な方法で広報を活発に行い、利用件数を増やす努力が必要である。
- ・資料を送付するという方法もある。

有識者評価

2.2

4-2c 見学・職業体験・教員研修・博物館実習生の受入

【主な取組】

- ・学校教育支援に対応した学習資料展を毎年開催。令和4年度は昭和30～40年代の子どもたちの「学び」「遊び」「家庭生活」について紹介。
- ・小中学校・幼稚園・保育園等へのプラネタリウム番組の学習投影や展示学習。利用件数172件。
- ・中学生の職業体験の受入。1校(2名)を2日間受入。団体利用対応、資料整理、標本作成作業。
- ・博物館実習生の受入。共通実習3日間、専門実習6日間。受入大学数16大学、受入人数19名。
- ・教員の5年目研修「社会体験研修」の受入。神奈川県立座間養護学校、座間市立旭小学校の教員各1名(計2名)。

【市民の意見】

(学習投影・展示見学者アンケートより)

- ・展示見学の時間が少なかったため、もう少し時間があるとなお良かった。
- ・社会科の学習で扱った内容を指導員さんから話してもらい、復習になり、より理解が深まったように感じる。
- ・学習内容にあったプログラムで、子どもたちが関心をもって鑑賞できました。
- ・ただプラネタリウム番組を鑑賞するだけでなく、子どもたちのペースに合わせて進行して下さりありがとうございました。

自己評価

4

【有識者意見】

- ・幼稚園児から大学生ならびに教員までが見学や研修できる受け皿があるのは、博物館が持つ特色でもある。学芸員は業務内容が増えて負担も多くなるが、今後も受入者に対して丁寧に対応していただきたい。
- ・コロナ前の水準に戻り良かったが、どの程度大きく上回ったのかについて、説明を要する。
- ・例年相模原市役所人材育成課の依頼で受け入れられていたインターンシップですが、新型コロナウイルス5類へ移行した現在、中止解除の検討を行う必要があると思います。インターンシップによる人材育成への博物館がもたらす影響は大きいと思います。

有識者評価

3.4